

D-28 食事に関する生活態度の調査研究 (第1報)

日本女子大学 岡本 陽子

本研究は家庭管理の立場から家族の各構成員が如何なる態度で食生活を営んでいるかの実状を把握することにより生活態度を推考しようという目的をもつものである。その中今回は特に各家庭の食生活担当者が食生活に関する個々の知識、技術、体験等を実際に具体化しようとする時、それらが如何に意識され総合されているかについて調査した。この調査は料理技術の修得場所、料理への関心、献立を立てるにあたっての時期、考慮する点、参考、ヒントになる事項等、15項目につき、質問紙法によって行った。調査対象は都内在住の家庭の食生活担当で、下町、山手、郊外の小中高校十校を通じて依頼し計941名より解答を得た。解答の結果、食生活に於ける関心の偏重や食生活上の不都合が意外に大きく各要素間のバランスが不均衡であることを知ることが出来た。